

### 第3回区民が取り組む環境エコ部会

日 時 平成20年11月21日（金）午後6時30分

場 所 川崎区役所7階会議室

出席者（敬称略）

委員 8人

菊地弘毅、木島千栄、須山令子、田辺富夫、長島亨、原田歩、藤岡玲子、古川博子

#### 1 開 会

事務局 <会議開催の事前公表、会議録の開示、傍聴の順守事項、会議の記録、広報としての写真撮影を説明、出席者を紹介>

#### 2 議 題

##### （1）課題について

部会長 事務局から資料の説明をお願いしたい。

事務局 <配布資料に沿って説明>

部会長 それでは、議題の実行計画策定について検討していきたい。実行計画策定に当たっては、各委員が事前に検討していると思うので、計画案がある方は改めて説明していただきたい。

まず課題1、地域緑化の推進について、積極的な発言をお願いしたい。

委員 少し先で課題の2の方に入ってしまうが、資料に「こども環境会議設立支援」とあるが、どういうものを想像したのかを聞いてみたい。

部会長 これは僕が提案した。前回出席した関係者の話にあったように、中原区ではすでにできているので、川崎区になかったら作る方向で中原区のを勉強する。こういう形なら川崎区でもできるということであれば、立ち上げるのに区民会議が働き掛けてもよいのではないかという発想で提案した。どういうことをやるということを考えるのではなく、子どもたちの自由な発想があるから、立ちあげたら子どもたちが主導でいろんなことをやってくれるのではないかと思った。

委員 まず、計画案の作り方についてだが、「誰が」というところは区民団体が入ってくると思うが、どんな団体があるのかを考えておいた方がよい。

部会長 いろいろな団体がある。例えばボランティア団体、町内会、その中の一つだと思  
うが老人クラブなど。ただ、これについては皆さんの方から積極的に提案してもらいた  
い。例えば皆さんからの提案では、緑のカーテンづくりについては商店街や町内会、P  
T A、まちづくりクラブなど挙げている委員もいる。どなたかいかがか。

委員 取り組みの主体については、まず最初に呼びかけは絶対必要なので、やはり区民会  
議委員プラス区役所が第1段階であって、次のフェーズで、区民団体や、商店街、区役  
所、学校、町内会ということになるのでは。

私は、緑のカーテンづくりと並行して、夏場だけではなく各季節で、各家庭で何か1  
つプランターなり鉢植えなりを常に持っているような環境をつくろうという提案をし  
た。私のイメージでは、主体は学校やまちづくりクラブなどで、緑化の推進や緑のカー  
テンづくり、各家庭でのプランターづくりの推進、種や苗の配布を行う。そのほかに区  
役所と環境団体が一緒になって植物の育て方教室をやったり、以前から取り組んでいる  
学校にモデル校になってもらって、そこから2つ目、3つ目の学校をつくっていくため  
の呼びかけを一緒にやってもらうなどを考えている。

部会長 やはり区民団体というのが出てくる。区民団体について皆さんがどういうものを  
想定しているかについて、我々が持っている知識、ふだん活動している範囲で思い当た  
る団体を列記した方が良い。今出たように学校、先ほども挙げたまちづくりクラブ、  
町内会、老人クラブ。ほかにもいろんなボランティア団体がある。2月14日に市民活動  
交流フェスティバルが教育文化会館である。あれには80幾つかのボランティア団体が参  
加する。ああいうときにPRすると大きいと思う。

委員 幸区に市民活動センターというのがあり、そこでは約1000ぐらいの団体が登録し、  
実質活動している団体は200団体ぐらいある。市民活動センターからはいろんな情報も  
らえると思う。また、教育委員会に協力してもらうわけにはいかないか。

部会長 学校に呼びかけるということは、教育委員会も絡む。直接できる学校もあるのだ  
ろうが、難しくなれば教育委員会ということになるだろう。

委員 やはり教育委員会に言わなければならないだろう。

委員 もう1つ、調べたのだが、ケナフというのがある。アオイ科のフヨウで、成長が  
非常に早く、二酸化炭素を一般の樹木の4倍以上吸収して空気を浄化させる作用がある。

非常に成長が早く比較的いろんな場所で生育できるので、東京電力で何年か前に区内でケナフを栽培していた形跡がある。そこではケナフを使った手すき和紙ではがきなどを作っていたとのことだ。例えば子どもが手すき和紙でつくったはがきを使って絵手紙を書いて、老人クラブなどに出すような取り組み方もできるのではないかと考えた。花だけではなくケナフも1つ項目に入ってもいいのかなど。

事務局 ケナフを植えるという場合、具体的にどこに植えるのか、誰が植えるのかなどという部分がないと、実行計画には落とせないと思う。

委員 私がイメージしているのは、例えば田島地区の人に参加してもらって、企業敷地の一部を借りてケナフの苗を植え、育ったところでそれを加工する。加工にはもちろん企業に手伝ってもらってということになるが、でき上がったものを生徒が紙すきをしてはがきにするという流れ。例えば絵をかく場合も、J F Eの中では現代作家の方々が参加しているので、絵かき教室のようなものを手伝ってもらおうとか。

川崎は産業都市だと思うので、企業も含めた地域とのかかわり方をできたら、川崎らしい取り組みになると思う。主体としては、我々区民会議委員と区役所、ボランティア団体など。市民活動センターに働きかけて一緒に手伝ってもらえる団体を募集する。あとは生徒も関わってくるので、学校も。地域と企業が連携を取りながらそういった活動ができればいいと思う。

部会長 「誰が」の中に企業を入れておくというのは良い。それから例えばゴーヤをやるときに、そこにケナフも入れて考える。それが実行段階でどのぐらいの準備期間が要するのか、企業に働きかけると言っても、企業の土地の中に簡単に市民が入れるのかなどは大きな問題ではあるが。1万本植樹運動のときにも、臨海部に5000本植えようといっても植える場所がなかった。企業の中に一般市民が入るのは危険過ぎるということで簡単にはできないので、結局海風の森の5000本植えざるを得なくなった。我々は大歓迎だったが。

事務局 ケナフを利用するという事は良いが、企業で育てたケナフを実際に紙にする状態まで持っていくという、そこまでやってくれる企業が果たしてあるか。ケナフという木を紙すきの状態までするのに、大規模な装置が必要になったり、ある程度お金がかかるということになると、なかなか協力をしていただくというのは難しいのではないかと。

委員 東京電力は以前やっていた。ケナフの件は確認していないが、J F EはC S R活動の一環として、クリーン大作戦として地域の方々と一緒にごみ拾いなどを行っているとの

こと。地域から提案があれば、参加はしましよというスタンスだとは思いますが、紙すきまでやるかはこれから先の問題。

部会長 企業を巻き込むという計画の中に、ケナフもひとまず入れることにすれば良い。調査をすれば、可能どうかはわかる。当面区民会議でやる取り組みの中に織り込めるのであれば織り込む。そういう提案があったということで記録に残して検討する。  
ほかに、我々委員で考えられる団体などはあるか。

委員 子ども会やこども文化センターもある。

委員 こども文化センターは中学校区に1つずつある。子ども会は町会に属しているところと、子ども会独自で活動しているところとがある。

部会長 ただ町会からは必ず子ども会にお金が行っている。実際は下部組織。

委員 町会にお願いすれば子ども会や老人会などに振ってくれるのではないか。

部会長 子ども会に入っている人のほとんどは地元の小学校に行っているから、小学校と子ども会を取り込めば良い。いろんな形で巻き込めば良い。

委員 そうだ。窓口はたくさん持ったほうが良い。

委員 私は「誰が」というところは単純に、私がということで考えた。ことしの春、ロータリークラブで桜の木に小学生の絵を張りつけた。それが非常に良かったので、私はそれを地域に広げていこうと考えた。ロータリークラブに話をしたら、共同事業でやろうかという返事をもらっている。

部会長 木の名前を書いた銘板とは違うのか。

委員 自然を守ろう、公園をきれいにしようといったことを書いた絵。桜だけではなく、公園の中の大きな木に張りつけた。

事務局 今のお話だと、課題2「地域や家庭での環境意識向上のための啓発・教育」の部分で、環境意識向上のためのポスター作成という提案が出ているので、そちらのほうに入りそうだ。

部会長 団体として考えられるのはその程度か。

次は、何をするかという部分。地域の緑化推進であれば、大きく分けると道路などにある植栽のこと、緑のカーテン、まちを花で飾る、その3つぐらい。この中で、地域で幹線道路沿いの植栽の管理をするだとか、公共施設の緑化ということで公園や支所を含めたりということになる。大師支所ではゴーヤを育てているが、そういうものを区の職員と地域の人がやるとかということも考えられる。あとは各家庭で緑のカーテンを西日が強いところに作ったり、配布した種や苗を植える。プランターや植木鉢はわざわざ買わなくても、各家庭では大体1つや2つは空いたままのものがあると思う。

それから、第1期の区民会議ではアメリカンフットボールのワールドカップを契機に、花で歓迎しようという取り組みをした。海風の森をMAZUつくる会がそれを受けて、たちばな通りと平和通りを花で飾った。ことしから東田商店街からも希望があったのでやって、商店の行事があるので増やしてほしいと言われて七、八鉢増やし、今は十数鉢ある。東田公園にも置いてほしいという希望があったので、ビオラを中心に50鉢ぐらい、桜の木と銅像の周りに二重に置いた。最終的には今年度250鉢ぐらい植栽した。あとは残ったものを三角公園に二重、三重に置いてある。まだ小さい苗だが、年を超えて2月、3月になれば相当大きくなると思う。

そういうことで、我々が1期目から取り組んでいるまちを花で飾る活動については、もう少し地域を広げようとしても、会員を増やすなどしないとできない。その上でここにこういう花を飾ろう、緑のカーテンをやろうということになると、4つぐらいに絞られてくるのではないかと思うが、いかがか。地域で緑化をする場合に、花を飾ったりする場所としてはこれ以外にはあるか。

委員 江戸時代の環境政策としてやったことだが、街道筋に緑を植えて日影を作る際に、実の成るものということで夏ミカンなどを植えた。それは今でも所々残っていると思う。そういった植樹もいいのではないか。多年草なので、1回植えればしばらくもつ。

部会長 今話があったように、道路をもう少し木や花できれいにしよう、そういう何か特色のある道にしようということでは、うちの前にはヤマボウシがずらっと植えてある。桜町商店街はカリンがずっと植えてある。カリン通りという名前にとってかわるんじゃないかということで、市役所の公園課が植栽をやっている。大体そういった特色のある植栽をしている。市役所通りにはイチョウを植えてあるし、ケヤキ通りのような名前がつくような、特色のある植栽をしたほうが良い。今のはそういうお話だと思う。

事務局 幹線道路沿いの植栽の管理は環境局が所管しているので、樹種の選定についても

やはり環境局がしていると思う。区民会議の意見として働きかけをすることはできると  
思うが、それが実現するかどうかは今後の調整になると思う。

また、植栽の管理については愛護会という団体があるので、そちらとの兼ね合いとい  
うこともあり、それについても今後の調整になる。

部会長 この辺は町内会の方はご存じだと思うが、グリーンベルトは老人クラブなどが、  
年に1万円前後のお金で管理していて、老人クラブの収入になっている。そこへ区民会  
議が何か言うと混乱を引き起こすことは間違いない。

ただお年寄りが多いので、車道側へ出てやっていると、道路沿いをすごい勢いで走っ  
ているバイクなどがあるので、見ていてひやっとすることはある。そういう点は環境局  
でも心配しているようだし、もう少し安全にできるような方法で、区民会議の要望をす  
るのが良いと思う。

道路の植栽の関係では、常にツツジを刈る時期が悪いから、花がまともに咲く場所は  
少ない。花物は特にそうだが、枯れる寸前に全部刈ってしまうと、次に出てきた来年の  
花芽まで切ってしまうから花が咲かない。タイミングのいい手入れをしてもらうといい  
のだが、予算等の絡みがあるから、一概にはできないという状況なのだろう。我々が自  
分の家の前だけでもできればいいのだが、みんながみんなできるわけではないし、特に  
あれはハサミでは刈れないので機械でやらないといけない。そうすると機械で怪我をす  
るなどの問題が出てくるので、ボランティアで行動に移すということを区民会議で提案  
するのは難しい部分がある。

公共施設や学校に緑化を呼びかけるということであれば、教育委員会を通したり、懇  
意にしている校長先生がいれば、例えば教育委員会を通して声かけしてくれなど、いろ  
んな提案ももらえると思う。実際に理解があってやっている学校と全然やっていない学  
校がある。小中学校が全部で30ぐらいある中から熱心な学校を3校でも5校でもいいか  
ら抽出して、手始めにやってみるといのように、これに関しては学校が中心になると思  
う。

あとは町会で公園の管理をしているところがあるが、本当に引き受けているのかとい  
う状態の公園もあるので、もう少しきちっとやってもらうことを周知する方法もある。

区長 学校の緑化については、ゴーヤの種を沖縄県那覇市の小学校からもらって、教育委  
員会がすべての学校に分け、市内全体でゴーヤのカーテンづくりに取り組んだ。もしや  
るとすると、次のステップが必要だと思う。

事務局 学校でこのまま続けいくのならば、採れたゴーヤを給食に使ってもらうなどの働  
きかけはできると思う。また学校以外の公共施設でまだ実現していないところはあるの

で、区役所が調整をすることはできると思う。

部会長 既に去年、教育委員会を通して学校でやったところもあるし、下地ができていますので、呼びかければ難しくないと思う。あとは種や苗をどうするかという問題。

少し考えたのだが、学校のプールの周りは必ず空いている。プールを使い始めるのは7月の下旬からなので、種を配るばかりではなく、ゴーヤの種をまく場所に使うのはどうか。各学校には大体ああいう空間があるだろうから、ゴーヤの種を1000粒、苗床を作っておけば、大体七、八百はできるだろう。ちょっと管理してやればすぐに大きくなるので、それを何らかの形で配布したり、地域の学校を通して渡したり、町会で配ったりということをするれば、空いているときのプールの活用になる。ついでに最後引き揚げるときに草を抜いてあげれば、プールが始まる時にはきれいな環境になる。

どこかもう少しできる公共施設などがあれば、挙げていただきたい。

委員 最近川崎でも増えてきた老人ホームや老健施設などには、結構殺風景なところが多いので、そこも少し緑を増やしたら良いと思う。

部会長 こ文や老人憩いの家、特別養護老人ホームなどの福祉施設。最終的には個人の家。海風の森をMAZUつくる会の会員に聞くと、ことしは葉ゲイトウとゴーヤのカーテンが結構あちこちで芽が出たということだから、ゴーヤはそれなりに成功したのだろう。これをあと各家庭でするように働きかける。

事務局 区民に植物の種や苗を配布するということでは、区役所では転入者に対して窓口でウェルカムバッグというバッグの中に地域のマップや便利帳を入れて渡している。その中に種や育て方のチラシなどを入れて差し上げるというのも1つの方法だと考えている。また転入者だけでなく、別の用事で窓口に来られた方に対してもそうやって提供できるシステムを考えていければと思う。

部会長 第1期から取り組んでいるまちを花で飾る活動については、来年もやることにして、区でも予算要求をしている。私たちはたちばな通りと東田あべにゆー、東田公園、平和通りをやる。水やりの問題があるので、簡単に水をもらえる場所でないとできないが、例えば大師支所や田島支所やこ文など、市の関係の施設の前の道に置くということも可能だと思う。僕らにそういうところをやれと言われてもできない。例えば田島地区や大師地区にも熱心な会員はいるので、1回きりならやってできないことはないが、毎年はできない。

委員 大師支所のゴーヤについて今日話をしたのだが、今は2カ所だが、今度は3本やると言っていた。やはり水やりが大変という言葉が出た。

部会長 問題は水やり。ユニフォームを着た者が行けば、いつでも簡単に水道を使える状態をしておいてくればできる。毎日でなくても、2日に1回たっぷりやっておけばまず大丈夫。

帰ったあとで、そういえばこういうところもあるということに気が付いたら連絡をいただきたい。それができるかできないかは、それができるボランティアが出てくるかどうかの問題になる。ことしできなくても次年度でやるという方法もある。

次に、今度は「どこでどのように」という話だが、区民に植物の種や苗を配布するのは、団体を通したり役所の窓口を通じて渡す。パンフレットの作成については、立派なものを作る必要はないのだから、ネットで調べたり既実践している人たちの知恵を借りればできる。

任期中でいつまでにやるかということだが、例えば緑のカーテンは、5月ごろから種をまくのだから4月ごろに配る。これからどんどん転入が始まるので、それまでに種が手に入るのであれば、そのころから渡し始めればいい。これについては種の配布の準備ができ次第ということ。準備だけしてもらえば、あとはどういう団体に配ってもらうか、どういうところで渡すかという話に移れる。

委員 実行計画にする以上は、どのぐらいの量が必要だとか、種にしる苗にしる買うわけだから、種や苗はいくらくらいかなどをはっきりさせないといけないのでは。今商店街にプランターを飾っているのは、種からまいて1つずつ育てたのか、それとも業者から買ったものを置いているのか。

部会長 最初の葉ゲイトウは、2丁目に住んでいる花づくりの名人から種をもらって、うちで900何十本の苗木を作った。その中から良いものだけを選んで、1つのプランターに2本植えて、150鉢をワールドカップの期間中に置いた。夏に葉ゲイトウやろうと思えば、種を取ってあるからお金はかからない。ただ、種を何粒あげるかが難しい。苗は簡単に育つが。

委員 ゴーヤの種を渡すなら何月にまかなければいけないとか、どのぐらいの地域に配布するのかとか、そういう細かいことまで実行計画の中身として議論するのか。

部会長 ゴーヤは去年の実績がある。市でどのぐらい用意したのかを参考にする。このぐらいの金額でこのぐらいを集められるから、どういう形で配布するのが有効か、転入者

に対する配布についても、四、五月ぐらいまでの間に毎年何人ぐらいあるということはお分かっているだろうから、ここでは幾つぐらいでいいとか、窓口に来庁する人には幾つぐらいとっておくというように。

例えばこれを継続的に毎年やろうとなれば、1つの実から物すごい数の種が出る。そういうことが実績となっていけば、ゴーヤの種もただ。ことしはそういうつもりでなかったから僕らは種は取っていないが。

委員 去年までやった実績を調べて、何校やっていたのでそれをモデル学校にして、何校についてはお願いをするなど、具体的に決めていく必要はないのか。やった結果もフィードバックして来年、再来年につなげていくのならば、写真で結果をもらうとか、きちんとした細かい計画が必要なのではないか。例えば、うちのほうの学校はプールが4階にあって土がないから、プールの周りにはまけない。いろいろな事情があるのだから、具体的にそこまで詰めていくのか。

事務局 今回の提案はやはり初めての取り組みということもあるので、試行的にやっていくことが大切だと思っている。一気に広げるということではなく、毎年毎年息が長い形でできればと思っているので、その辺は実行計画が決まって、実行の段階でどこまでできるかは検討していかないといけない。

区長 実行計画が決まったあとに、例えば区民団体をどこにするか、学校はどのぐらいの規模かなど、詳細については別途事業をするときに事務的に整理して提示する必要があると思う。全部やるとなるとなかなか難しい部分も出てくると思うが、ここで考え方をきちっと整理して、何校にするか、どこにするかということは、事務局で情報を集めて整理して提示することになると思う

部会長 では課題の2「地域や家庭での環境意識向上のための啓発・教育」に移りたい。解決策としては、環境意識向上のためのポスターづくり、環境出前講座、環境啓発・教育の実施と3つぐらいに分かれている。「誰が」の部分に関しては、区民団体、学校、区役所など、先ほどとほとんど同じだと思う。何をするかということでは、エコ啓発ポスターの作成、出前講座、環境エコ週間の制定、環境先進企業の見学会などが出てくるのでは。

環境意識向上に関しては、先ほども桜の木などにポスターを張るのは好評だったという話が出ていたが、前回から出ているように小学校を巻き込んでエコポスターの作成をすることも考えられる。また、我が家の温暖化ストップ宣言として、家族で話し合っ、節電に挑戦してみたらどうだとか、我が家のエコ宣言「節水するぞ」だとか、我が町の

エコ宣言「買い物にはマイバッグを持参しよう」とか、我が町の温暖化ストップ宣言「天ぷら油の回収」、これは1戸でやっても仕方がないので、ある程度まとまってやる。こういうものを作って見てはどうか。何を宣言するかは個々の家庭だったり、学校にお願いするのなら子どもたちが、これだったら少しはできるということを自由に書き込めるものを作って家の中に張る。我が町のエコ宣言の場合は、我が町はこういう形でエコに挑戦しようということが決まれば、書き込んだものをパウチして、半年でも町会の事務所や町内会館の目につくところに張ってみてはどうかと考えた。

各委員から出た提案を見てみると、子どもたちにポスターなりを作ってもらって、優秀なものは印刷して、町内会館に掲示するなどして公の目にさらすというもの。あとは最近良くやるのは、川信の展示場を借りたり、川崎のアゼリアにも掲示できるスペースはあるので、そういうところで子どもたち作品を展示してあげる。そうすれば子どもたちも描いた甲斐があるし、そういうことを盛り込んだものをやろうというご意見になっている。

出前講座に関しては、前回来ていただいた関係者が所属するのグリーンコンシューマーグループも川女連に何回か講座をやっているの、そういった形で何らかの団体に来てもらう。ただ、他の区では環境関係の講座の卒業生が有志でやっているのに、我々川崎区がそこに頼むというのは余りにも情けない。自分たちで出前ができるグループを立ち上げるために、例えば公園にある大きな掲示板に環境リーダー講座に参加しよう、地域の環境リーダーになってくださいという掲示をしてはどうか。そういった掲示は今まで見たことがないし、市政だよりの記事はほとんど漢字の羅列だから見ていないだろう。川崎区に2500平米以上の公園が63あるので、そういうものを出すことで環境リーダーを増やして、今度は我々に代わってエコのために中心的に動いてもらうというのはどうか。

出前講座をやる場所に関しては、大師支所や田島支所などではなく、地元の普段皆さんのなじみのある場所でやるのが良い。例えば何かのときに各町会でビデオを見てもらうなどしてはどうか。委員からの提案を見ると、そういった意見にまとまるようだ。

あとは、8月の第1週など特定の週を設定して、この期間は環境を考える1週間だとして打ち水や、花に水をやるなどしてはどうか。ことし1年だけではなく、毎年何か催しをやってはどうかという提案も出ている。

それから中原区では、有名な元住吉のブレーメン通りや近くの小学校の子どもたちが中心になって環境会議を開いて、いろいろ提案をしたり、ポスターを作ったりしている。そういうものが川崎区にないとなれば、学校や教育委員会に働きかけて、我々が側面から応援するような形で作ってはどうか。すでに地域教育会議はいろいろやっているので、その一環として自然環境などに取り組んでいる可能性は十分ある。

委員 新しく立ち上げるのはとても大変だと思う。地域教育会議に子ども会議があるので、

そこで環境の問題を議題として提案していくという方法が一番実現可能ではないか。

部会長 地域教育会議というのは、中学校区ごとにあるのか。

委員 中学校区の地域教育会議は10カ所あるが、それとは別に区的地域教育会議というものもある。区的地域教育会議に子ども会議がある。

委員 中学校区の地域教育会議でも小学校と一緒に子ども会議と大人会議をやっている。

部会長 わざわざ環境会議を立ち上げなくても、既存のものがあるようなので、その辺を整理して、それがうまく機能するようにすれば良い。

中学校区ごとの地域教育会議を束ねて区的地域教育会議というわけではないのか。

委員 区的地域教育会議はエリアごとに分かれているわけではない。各中学校区の地域教育会議の代表が出ていたり、OBの方や教職員も入っている。

中学校区の地域教育会議では、小学校の代表委員会などを通じて子どもを集めて、子ども会議を大体年に1回開いている。区的地域教育会議は、年間通して子ども会議の募集をかけて、集まってくる中学生と小学生が参加して年に数回定期的に会議をしている。拡大子ども会議というものもあって、区地域教育会議の子ども会議だけでなく、中学校区の地域教育会議の中の子どもにも集まってもらって、11月の初めぐらいに行っている。もう終わってしまったが、そうした活動をしている会議があるので、そういうところと関わるのが良い。

部会長 それで十分だ。

事務局 実行計画ということになると、子ども会議に何を、いつ、どういうふうなことをやってもらうのか、誰が中心になってやるのかなどをはっきりさせなくてはいけない。

委員 区的地域教育会議は堀切議長がずっと関わっている会議なので、話をして、理解を得られれば協力してもらえらると思う。子どもの自主性に任せるという基本的な考え方はあるようだが、一から賛同者を募ってというのではとても大変なので、そういう会議の代表者たちと意思疎通を図って、可能かどうか探っていくのも1つの手ではないかと思った。ただ、それがいつ、どういうふうにとすることは、私はまだその代表者たちとも話をしていないので分からないが。

部会長 実際、会議の中でも環境問題についての話し合いもあったところもあるのでは。

委員 夏に八ヶ岳のサマーキャンプにも行っているんで、そういった話になったところはあると思う。キャンプは地域教育会議で募集して、いつも満員になる。遊びという面もあるのだが、環境問題に関する意識もあり、水質なども調べているようだ。

区長 問題は、子ども会議で何を議論するかということ。例えばある学年のクラスが緑化などの環境に関するテーマに取り組んで、それを発表する形をとるのか、個人参加の形をとるのかによって、学校や教育委員会、地域教育会議に対する区のアプローチの仕方が違うと思う。各学校・学年で取り組んだことを発表して周りの子どもたちに啓発をしていくということであれば、それはそれでいいと思う。実行計画で方向性がはっきりすれば、あとは事務局がどういう方法が一番便利かという可能性を事務的に探ることはできると思う。

事務局 子ども会議に対してどういうアプローチをしていくかというところを、具体的に  
する必要がある。

部会長 子ども会議自体の実態を我々もつかみ切れていない。

区長 学校単位でやろうとすると、区からこれをやってくれというのがなかなか難しい。  
例えば小中学校でそれぞれ取り組んでいるものがあるという情報があれば、それを大きく発表しようという声かけはできるが。現状では実態がわからないので、情報収集をして、可能性を探るのに少し時間をいただければ。

部会長 ただ、今の話を聞くと、わざわざ子ども環境会議を設立するのは余り意味がない  
という感じがする。子ども会議が環境のテーマを取り入れてくれて、それなりの動きを  
してくれれば十分だ。八ヶ岳へ行くという話だが、遊びという面があったとしても自然  
の中で遊ぶのだから、それでも十分だ。

次の解決策「環境汚染の原因の解決策を考えた環境意識向上の取り組み」に関しては、  
自分たちが使っている中性洗剤をやめて石鹼にしようとか、車のアイドリングを止めよ  
うだとか、そういう個々のところで実際できることがある。

次の項目「環境先進企業見学」。川崎では見学大歓迎の企業が幾つかあるので、そう  
いうものに参加してもらおう。奥さん方はみんな知っている。行ってみると、味の素なん  
か2回目だか3回目だという人が結構いる。

事務局 環境先進企業見学は、今年度区で4校を対象に実施している。JFEと味の素に1日かけて行き、お昼休憩はことし4月に防災拠点としてオープンした東扇島東公園。砂浜があるところで食事をしてもらって、大変好評だった。来年度も4校ぐらいで続けていければとは思っている。歴史ガイド協会などの地域の団体に、バスの中で地域の歴史の授業をしてもらうだとか、場合によっては会場を借りて講演会をやるなどして、地域の特色を出したような見学会を展開できればと考えている。

部会長 将来ある子どもたちにすばらしい技術を見せるのはよい。製鉄工程でもみんなびっくりする。僕は海風の森を作るときに東扇島の東京電力を見せてもらったが、20年経つところなるのか、すごいなと思った。環境への取り組みを一生懸命やっている企業があるので、これを何校かずつ継続的にやっていくと良い。

事務局 企業にはあくまでも環境メインでお願いしたいということを事前に話すので、ある程度環境を中心に話してくれる。そういう意味で良い勉強になっていると思う。

委員 4校というのはどういうふうにしたのか。

事務局 校長会でPRして、手挙げ方式で決めた。

部会長 資料の中で抜けている点や、何か思いついたものはあるか。

事務局 先ほど長島さんが提案された件は、まさにここ書かれている「環境意識向上のためのポスターの作成」に入る。

委員 種を各世帯に配布するなどは4月か5月でいいと思うが、ポスターを依頼する場合、学校にはいろいろ都合があるので、なるべく早くにしないと無理のようだ。来年の春にでき上がるためには、ことし中でも遅いぐらい。

委員 学校よりも子ども会のほうが、手早く簡単にやってもらえるのではないか。学校との間で協議会を持っているが、学校の都合優先で、夕方の3時半に始まる会議だ。作文をお願いしても、中学校、小学校は大変なんだと言われる。

委員 確かに子ども会に頼んだほうが簡単。学校へ頼むのだったら、すぐ頼まないといけない。去年書いてもらったものも、やはり暮れまでに頼んだ。毎年やってもそうだ。

事務局 学校のカリキュラムの関係もあるので、1月の校長会に翌年度お願いする事項を言っておかないと、なかなか反映させてくれない。ある程度やることが決まれば、その時期に区として校長会に投げかけをしたい。

部会長 遅くなると、場合によっては夏休みの宿題の中に入れてもらうなどになるかもしれない。

区長 時間的に間に合わないのであれば子ども会にお願いして、1年計画ということであれば学校にお願いするという事は試行的にできる。

もう1つ、「地域環境リーダーの育成」というのは非常に良いと思うが、例えばリーダー養成コースへ行ってもらって、帰ってきた後にどういう形で活躍してもらうか、活躍の場をどうするのか、という問題がある。

部会長 委員は環境リーダー第4期卒業生なので、経験を話して欲しい。

委員 人によって環境リーダー育成講座に行く目的が違うので一概には言えないが、私の場合は、自分が地球に良いことをしたいということと、そういう仲間を増やしたいという気持ちで始めた。修了した後は、自分がたまたま異業種交流会を2つ運営しているので、そこで発表の枠をもらって練習して、それを聞いていた仲間から話をもらっている。川崎市では余り経験がないが、藤沢でボーイスカウトの活動をしている仲間がいたので、ボーイスカウトの子どもたちのお父さん、お母さんを集めて環境問題の講演をやった。リーダー研修を受けても、すぐに実践につなげないとしゃべれなくなってしまうので、修了したらこういう場があるというのは非常に良い提案になる。私からも、区民会議で話がまとまれば、修了してそのままにならないように環境調整課に働きかけたい。

区長 講座に行ってもらって、川崎区のために活動する場を設けることが必要なのでは。組織を別に作る必要もあるかもしれない。ほかの区民と一緒にやっていくようなグループ。個人単位ということになると、区民会議としてリーダー養成をするという先が読めない。

委員 組織を作るまでは必要ないと思う。環境リーダーを育成している環境局が今進めているのは、1人にならないで、既存の会に入ってもらうこと。そういう形が一番良いと思う。例えば海風の森をMAZUつくる会で言うと、実際に体を動かしているが、個人としてもっと仲間をつくりたいとか、環境を大事にする気持ちを持っている人を広く集

めたいということであれば、出前講座等で練習していくなどの場が得られる。その人の自主性に関わるころではあるが、とにかく1人になってしまうとだめなので、どこかの環境団体に入ってもらうのが良い。

区長 リーダー養成講座へ行きなさい、あとは個人でお任せという提案は流れが良くない。その受け皿を個人に任せておいていいのか、あるいは区民会議として地域で環境の取り組みを進めるグループを受け皿とするのか。

委員 地域や家庭での環境意識の向上ということでは、そういう人を作っていくことで出前講座などを区民で盛り上げていこうという提案。出口はそこだと思う。

事務局 環境リーダーといっても、いろんな分野がある。その人たちが集まっても、分野が違うので、統一した環境出前講座はやりにくいと思うがどうか。

委員 模索しながらになると思う。11月1日に11期の講座が終わって20名修了したという話を聞いた。20名のうち何人かは活動する場を決めたが、まだ決めていない人もいるということだった。

事務局 模索しながらであっても、ある程度説明したり講座を開いたりできるのであれば、川崎区のリーダーが1つ団体を作って、区内の他の団体に出前講座を開くということができるのではないかな。

委員 そういったことを検討しながらということになると思う。

部会長 ただ、何しろ川崎区は受講生が少ない。グリーンコンシューマーグループなどの既存のグループへまず入ってもらおうということが良いと思う。始めは他の区の人も入ったグループに出前講座をしてもらうことになっても、川崎区の卒業生が増えていけば、そのうち川崎区出身のグループが川崎区を担当するということになる。

区長 区民会議の提案で、区民が主体的に環境の取り組みをすることになると、やはり地域の運動主体があった方が良いのではないかなと思う。時間はかかるかもしれないが、養成講座に行った環境リーダーを中心とした、区民主体の運動体があってもよい。

部会長 時間はかかっても作らなくてはだめだと思う。出前講座なりをやる際に、いつも区外から来てもらうというのはちょっと。

事務局 今は行政がある程度お膳立てしている部分もあるが、行政が介入しなくても、その団体が教える団体を見つけて、そこで自由にやってもらうという形で発展していけば一番良いと思う。

部会長 そのためにやはり周知活動をして、1人でも多く受講してもらうことが大事だ。

最後の課題は、多摩川と学校のビオトープの関係。「誰が」という点では、多摩川の場合は多摩川クラブ、多摩川遊クラブという団体がある。また、大師河原の水防センターを管理している団体もある。そういう既存の団体に我々が教えてもらう形で、その中で区民会議として協力できればいいのではないか。すぐにできるのは清掃。また、多摩川にはカニでも種類がたくさんいる。そういう水辺の生物と触れ合うことを、子どもたちと一緒にやる。ひとまずは殿町小学校のように一生懸命取り組んでいる近場の学校から声をかける。

多摩川へ行って一番感じるのは、干潮になると結構砂浜があるのだが、大きな石ころがごろごろしている。ごみは結構みんなが拾っているからあまりないのだが、石がすごい。7月か8月に多摩川の清掃をやっている。そのときにでも100人、200人で石を拾っては手渡しで道路のほうへ持ちあげて、きれいな本当の砂浜のように、昔の塩浜のようにすれば、子どもたちは河原まで下りていくと思う。今は下りて行っても危険。

そういうことをすることで費用をかけないで多摩川をよみがえらせることができるのではないか。遊び場としては、東扇島東公園の人工なぎさへ行かなくても、そちらのほうがよほどいいと思う。そういう提案はどうか。川岸の整備ということで、清掃も兼ねて、子どもたちに環境の勉強をして興味を持たせる。トビハゼなど珍しい生物もいるので。

事務局 町内会を中心に年に1回、多摩川の美化活動をやっているが、それとは切り離して別の形でできたら良いと思う。動員型でやるよりも、子どもや関心を持っている人に呼びかけをして参加してもらって、清掃活動や自然学習ができれば良いのでは。先ほど話に出たように、多摩川クラブや多摩川遊クラブのような経験のある団体を巻き込めると、効果もより上がっていくと思う。

部会長 やるとなったら彼らが中心だ。そうしないとうまくいかない。

多摩川の関係で提案したいことはあるか。

委員 30年ほど前、殿町2、3丁目の多摩川の土手に桜の木を七、八十本植えたが、今は両手に抱えるぐらいになっている。その木の周辺がやはり汚れるので、殿町小学校の生

徒に絵をかいてもらって、全部の木に張った。そうすると、やはり汚されない。周辺の掃除をしながら名前入りのポスターを毎年1回張っている。殿町小学校の生徒は多摩川によく行って多摩川にはなじんでいる。

ただ、ヨシがいっぱい生えているので、川の中は砂浜という感じではない。子どもが入っていくと危ない状態。

部会長 前はホームレスが大勢いたが、今はほとんどいない。

委員 多摩川沿いに桜の木を植える計画はあるのか。

区長 市ではない。多摩川ではスーパー堤防構想という、堤防の幅を広げる考え方がある。

それに合わせて桜の木なり別の木を植えるという構想はあると思う。ただ、それには相当時間がかかり、次にやるのは等々力だという話は聞いている。

委員 桜を植えると格好いいが、毎年メンテナンスに50万円以上かかる。

部会長 桜の木は虫がたかるが、その駆除にお金がかかる。特に今年は毛虫が多かった。

区長 大師のほうはまだ人が少ないが、中原区で桜を植える話が出たときに、結構土手を利用する人がいて、やはり毛虫の問題があったと聞いている。

委員 最近は余りないが、10年ぐらい前までは、アメリカシロヒトリが発生して苦情が多かった。それを消毒すると、今度は鳥のえさになるから薬をまかないでくれと保護団体の人から苦情が来た。

部会長 多摩川は国が管理しているので、国の許可をとらないと植えられない。土手が崩壊するので、原則土手には植えてはいけない。だから、どこへ行っても土手の外側に植えている。

委員 土手の外側に植える際にはやはり許可を取る必要がある。

部会長 こういった取り組みをする際には、小田の方の人が多摩川に来てといっても簡単には行かないので、やはり地元の小学校や町会、団体が中心になる。

委員 我々は美化活動のときは、企業の組合の人や町会などで、産業道路を多摩川と見立

てて周りを清掃している。

委員 産業道路沿いの植木にはすごい量のごみがある。

部会長 多摩川に関してはこのくらいか。あとは学校のビオトープ。これは学校への働きかけが中心になる。僕が毎日行っている向小中学校でも、ビオトープにアオコが生えてしまって、泥くさくなっている。ああいうところでもきれいにすれば、それなりの水辺になる。これは木島さんから提案があったイケチョウガイが関係あると思うが、購入して放すとしたら結構高い貝なのか。学校の池のような場所でも生育できるのか。

委員 イケチョウガイの値段は調べないとわからないが、埼玉は1400個ぐらいのイケチョウガイを川に沈めて水を浄化したという実績がある。

イケチョウガイが何でいいかということ、淡水真珠がとれる。女性がすごく喜ぶのではないかと。水を浄化できて、しかも皆さんが後から喜ぶという一石二鳥。

ただ、調べたところ浄化作用はあるが、貝が生きるためにはやはりふんもするので、そういったものを食べる海底生物が何種類かいないと長くは生存できない。水槽などで浄化実験をやるにはいいが、貝をビオトープの中に入れて、水がきれいになって、そのまま生息できるかといったら難しいことが分かった。私はあくまでも多摩川に入れるという構想のもとで提案をしたのだが、例えば学校に水槽を持ち込んで多摩川の水を入れ、イケチョウガイを入れて浄化する。それを子どもが実際に見て感じて体験できるというのが、最初の第1段階としての環境教育になるという気がする。言葉で説明するよりも、環境に関心を持ってくれると思う。

こういったことを誰がするかということでは、例えば教育委員会、市民、区民会議委員など。または国の関係機関である水産総合研究センターから誰かに来てもらうことも考えられる。

大師河原の水防センターのすぐそばに水路があるようだが、そこでもできるかも知れない。

区長 ただ、そこは水門がいつも閉まっていたと思う。余り水が流れないので、効果があるかどうかは研究が必要。

委員 水が流れていないといけないというわけではないようだ。たまり水でも海底生物がいれば大丈夫のようだ。

事務局 それだけの規模の水質を浄化するとなると、ある程度の数の貝が必要になる。ど

のぐらいの費用がかかるのかということも含めて、可能性があるかを事前に検討しないといけないと思う。

委員 大師河原の水防センターでは、定例の観察会を殿町の干潟あたりでやっている。こういうところと協力し合いながら、イケチョウガイを沈めてみれば子どもも喜ぶ。

委員 私は育てたことはないが、川に沈めたのではだめだと思う。よくテレビで見ると、養殖をするような形で柵を作って、そこに固定しないと移動してしまうのではないか。想像だが、結構な仕掛けをつくらないと無理なのでは。テレビで見たところでは船もなくてはいけないと思う。

区長 これは印象なのだが、イケチョウガイによる水の浄化に関しては「川や池の環境保全」という項目よりも、2番目の「環境啓発・教育の実施」の中で、子どもの学習という観点で入れた方が良いのではないか。研究をしていって、条件がそろったところで実施するという方向で考える要素はあると思う。いきなり水を浄化するということで行くよりは、その手前の子どもの教育、環境の教育という視点で取り組むと、時間的にも情報を集める余裕できると思うのだが。

委員 我々も公園を直してもらうために、世田谷にある東京農大を見学させてもらったことがある。大学内にあるビオトープは非常に立派だった。ああいうものを普通の公園でやるのは難しいと感じた。ポンプで循環したら意味がないし、公園事務所によると蚊が湧いて周りから苦情が来るからだめだと言われた。我々が子どものときにあったような沼は今は全然ないので、確かにあれば良いとは思いますが、それを公園に作るのは無理かなと。

部会長 ビオトープは無理なようなので、水質浄化の実験のような形で検討するということにしたい。

今のところ出ているのは以上だが、課題1、2、3を含めて、何か言い忘れたとか、こういうこともあるのではということはないか。

事務局 課題2のポスターづくりだが、環境エコの啓発ポスターを作成してもらって、町内会館の掲示板に掲示するというのが1つと、桜の木等にポスターを掲示するという2つ案があるが、これは並列で並べて良いのか。それともどちらかに絞り込んだほうが良いのか。

部会長 両建てでいいのではないか。桜の木の話が出たが、それだけに限らず例えば地域の街路樹でも良いのでは。子どもたちが描いたものだから、ほほ笑ましいとかおやっという感じで、悪い感じは与えないと思う。

樹木につけるとなると緑政の許可を得ないといけないと思うので、その辺は対応していただきたい。すぐに新年度は来てしまうので、その前にできるものから1つずつ試みていくのが良い。結果が良ければだんだん広げていく。30%でも、10%でも良いから取り組んで、5年、10年経ったら、これが区民会議の成果だと言われるような感じでいい。すぐにやるのは不可能。そのくらいでできるのだったら既に実施していると思う。行政も市議会議員もいて、できていないということは時間がかかるということ。1つずつできることからやっていくという原則でやりたい。

課題1、2、3について、誰が、何をという形でまとまったと思う。これを事務局でまとめていただくということで良いか。

各委員 異議なし

### 3 閉 会

事務局 <全体会議の日程、区ホームページでの会議録公開、市政だより川崎区版への記事掲載を説明>

午後 8時25分 閉 会